

開講年度	令和 7 年度		開講課程	博士後期課程
授業名	器官病態外科学特別演習			
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室	
科目区分	特別科目	配当年次	1 ～ 2 年次	
必修・選択の別	選択	単位	2 単位	
対象学生	—	使用言語	日本語	
キーワード	(脳神経外科学) 脳卒中 (整形外科学) 運動器疾患、神経生理学、生体力学 (脊椎脊髄病学) 脊椎脊髄手術 (Spine and spinal cord surgery), 低侵襲脊椎外科手術 (minimally invasive spine surgery), 骨粗鬆症性椎体骨折 (osteoporotic vertebral fracture) (視覚病態眼科学) 眼組織創傷治癒 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 聴覚、平衡覚、嗅覚・味覚、嚥下機能、頭頸部腫瘍、感染症			
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(脳神経外科学) 講師 北山真理、講師 八子理恵、講師 中井康雄 (整形外科学) 准教授 岩崎 博、准教授 筒井俊二、准教授 高見正成、講師 長田圭司、講師 西山大介、講師 福井大輔 (脊椎脊髄病学) 教授 中川幸洋 (視覚病態眼科学) <u>教授 雑賀司珠也</u> 、教授 岡田由香、准教授 住岡孝吉、准教授 小門正英、准教授 田中才一、准教授 白井久美、准教授 岩西宏樹、講師 石川伸之、講師 安田慎吾 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 教授 保富宗城、准教授 玉川俊次、准教授 河野正充		
	薬			
授業の概要	脳神経外科学、整形外科学、脊椎脊髄病学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、外科系の各分野における最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解するとともに、研究技能の向上を目指す。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について深く学ぶ。			
到達目標	(脳神経外科学) 脳卒中予防に向けた地域の保健医療課題について理解する。 (整形外科学) 運動器疾患における神経生理学、生体力学の重要性について理解する。 (脊椎脊髄病学) 高齢者の脊椎脊髄病疾患の治療の実態について（特に骨粗鬆症性椎体骨折について）、その現状の治療の把握と問題点の整理、必要となる介入の種類とその方法の開発について検討することができる。 (視覚病態眼科学) 各分野における最新の研究動向を理解する。 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の感覚・機能・頭頸部腫瘍に関する最新の研究動向を理解し、研究仮説を立て説明することができる。			
授業計画	(脳神経外科学) 脳卒中予防に向けた地域の保健医療課題：脳卒中予防に関する最近の論文を抄読し、ディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養う。 (北山真理／八子理恵／中井康雄)			

授業計画	(整形外科学) 運動器疾患の神経生理学的・生体力学的調査研究に関する概説的な講義を行うとともに、最新の文献を読み、教員と議論することにより、運動器疾患に関する理解を深める。 ・運動器疾患の神経生理学、生体力学的研究の最近の動向 ・生体力学的研究の基礎と応用 ・神経生理学的研究の基礎と応用 (岩崎 博／筒井俊二／高見正成／長田圭司／西山大介／福井大輔) (脊椎脊髄病学) 脊椎脊髄疾患に関する治療の変遷及び低侵襲治療の開発と評価、現在開発中の低侵襲治療に関する評価と改良について検討を行う。(中川幸洋) (視覚病態眼科学) 眼組織並びに他臓器での創傷治癒や生体反応について講義する。並行した演習では、講義に関係する分野の最新論文を抄読することにより、研究動向を理解し、研究技能の向上を図る。担当教員との議論の中で眼組織創傷治癒に係る課題発見、研究結果の解析・解釈や発表方法について修得する。(雑賀司珠也／岡田由香／住岡孝吉／小門正英／田中オー／白井久美／岩西宏樹／石川伸之／安田慎吾) (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 1. 聴覚、平衡覚(河野正充)、嗅覚・味覚(保富宗城) 人工内耳による聴覚の評価と最近の研究動向、平衡覚について重心動揺計を用いた評価と最近の研究動向、嗅覚障害動物モデルによる嗅覚行動検査と嗅覚再生機序研究の最近の動向を解説する。 2. 嚥下機能(玉川俊次) 嚥下障害の評価と最近の嚥下改善手術の動向を解説する。 3. 頭頸部癌・甲状腺癌(玉川俊次) 頭頸部癌におけるパピローマウイルス・EBウイルスによる発癌機序研究、頭頸部癌転移機序における上皮間葉移行、甲状腺癌における遺伝子変異に関する最近の研究動向を解説する。 4. 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症(保富宗城) 耳鼻咽喉科感染症の難治化と重症化に関する最近の研究動向、耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症に対する抗菌薬適正使用について解説する。 (保富宗城／玉川俊次／河野正充)
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%(討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など)によりS(90点以上)、A(80～89点)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下)の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー(学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	(脳神経外科学) 特に指定しない。 (整形外科学) 特に指定しない。 (脊椎脊髄病学) 【教科書】「標準整形外科学 第14版」 著者：井樋栄二 出版社：医学書院 (視覚病態眼科学) 特に指定しないが、教員が作成した資料を配布する。 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配付する。 【参考書】「新耳鼻咽喉科学」著者：切替一郎、監修・編集：野村恭也、加我君孝 出版社：南山堂 英文誌「Laryngoscope」 出版社：Wiley Online Library